

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部前期理科一類二年

参加プログラム: UC Berkeley Summer Session (Session E) 派遣先大学: UC Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

UC Berkeley は世界有数の高い学カレベルの大学。California 州の San Francisco のすぐ近く(電車で 1 時間弱)にあり、同じカリフォルニア州にある Stanford 大学とはライバル関係にある。

参加した動機

英語をツールとして何かを学習する経験をしたかったから。今後進む学部や大学院、そしてその先の進路でおそらく必ず英語をツールにする時が来ると思い、そのための経験値を積んでおきたかった。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きは概して非常に面倒ですが、絶対早くやりましょう。大学に提出する必要書類のなかに、発行に時間がかかるものがあつたりする(例えば残高証明)ので、余裕をもってやるのが肝心です。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの種類は F1 でした。米国大使館のホームページはビザ申請に際しての情報がいろいろある上、記入すべき内容も沢山あります。面倒ですが大事な情報も結構あるので一読してから手続きを始めるとよいと思います。

注意すべきことをいくつかあげれば、

- ・ビザ発行手続き前に、UC Berkeley から送られてくる I-20 という書類が手元に必要
- ・SEVIS 費用というものを、ビザ申請費用とは別に支払う必要がある
- ・面接の日程はオンラインであらかじめアポを取る必要がある。

また大使館はこの時期留学希望の人で混み合っているので、アポを早めにとっておかないと面接が間に合わなくなることがあるので注意が必要です。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に健康診断や予防摂取はうけませんでした。ただ持病薬に関しては留学中に切らすことがないようにあらかじめ多めに処方してもらいました。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学生協の海外短期留学プランに申込みました。現地では何ががあるか分からないし、保険がないと医療費は高額になるので、何かしら入っておくといひと思います。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

ひとつの授業のテストが留学期間とかぶってしまったので、直接先生と交渉をして代替のレポート課題を期末試験のかわりに課してもらいました。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前は TOEFL91 点でした。留学にむけて特別英語の準備をしたわけではありませんが、中級英語の授業を履修していました。

⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

気温が日本の秋ぐらいで肌寒いので、長袖を多めに持っていくとよいと思います。

日本語の観光ガイドブックも意外と重宝します。

ノートパソコンは是非あったほうがよいです。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

PACS (Peace and conflicts solution) という授業を履修しました。事前に 4 冊ほど文献を指定されますが、絶対に読んでおかななくてはいけないものではありませんでした。授業は週 4 日で、朝 9 時から午後 4 時まででした。宿題は毎回授

業後にその日に自分が学んだことや考えたことをメールで提出するだけで簡単なものでした。Session E は 3 週間ありますが授業があるのは最初の 2 週間だけで、最終週は Final Paper (8 から 14 枚程度)を書くために割り当てられていました。授業のスタイルはワークショップがメインで、個人間から国家間まで幅広い対立・争いについて、ロールプレイを通じて解決方法を学ぶものでした。

② 学習・研究面でのアドバイス

折角留学しに行くのなら、遠慮せず積極的に参加しましょう。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

相手の話を聞き取ることができないことが多かったのが、非常につらかったです。何を話すにもまずは相手の話を理解することが不可欠です。逆に発音があまり上手でなかったり流暢に話せないとしても、相手に聞いてもらう価値のある内容を話せば相手は熱心に聞いてくれます。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

BSC (Berkeley Student Cooperative)という生協の、Kingman Hall というところに滞在しました。最初は満員だったのですが、キャンセル待ちが回ってきました。Kingman のよかったこととしては、値段が安い、Berkeley の学部生と知り合える、食材が使い放題、学校まで徒歩 10 分、屋上から見る景色が素晴らしい、などです。一方悪かったこととしては、掛布団がなかった、週 5 時間のシフトがあった、キッチンはかなり衛生的ではない、などです。個人的には現地の学生のリアルな生活を知る良い機会だったので、満足しています。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は予想に反してかなり涼しかったです。朝晩は 10 度前後しかなく、長袖のパーカー等を来ていても寒いです。日中は日差しが出てくると 20 度ちょっととなり過ごしやすい気温になります。雨は 3 週間の間で一度も降りませんでした。

大学の南側には Telegraph Avenue という活気のある通りがあり、周辺には飲食店からお土産屋までいろいろなお店があります。

大学周辺にはいろいろな種類のバスがあり、いずれも UC Berkeley の学生証があれば無料で利用できます。また、San Francisco には BART という地下鉄で 3、40 分で行けます。

お金については、クレジットカードを二枚持っていきました。また、現地についたときにキャッシングで 200ドル位をおろしました。基本的にほとんどの場所でクレジットカードが使えるので便利です。カード 1 枚と現金の一部は万が一の場合に備えて部屋のスーツケースのなかに鍵をかけてしまっておきました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学周辺の治安について。日中は治安は良い方だと思います。一般的に海外で注意すべきことに気を付けていれば大丈夫だと思います。ただ夜になると、大学の南側の治安はあまりよくありません。日が暮れるのは 20 時過ぎなので、なるべくそれまでには家に帰るようにしたほうが無難でしょう。実際のところ僕はそれ以降も出歩くことがあったのですが、大学北側であればそれほど危険ではありませんでした。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券 20 万

授業料 21 万

宿泊費 14 万(6 週間分)

教科書 6000 円くらい

食費、観光費、お土産など 12 万程度

⑤ 学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

インターネットで見つけた JASSO より 16 万円の奨学金を支給していただきました。

⑥ 習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

授業がない日や休日は、クラスの友達を計画していろいろな場所へ観光に行きました。サンフランシスコやヨセミテ、ロサンゼルス、スタンフォードやシリコンバレーにも行きました。当然授業がメインなので体力的に厳しいところもありましたが、行ってよかったと思います。

普段の授業後はクラスの友だちとパークレー周辺をぶらつきながら会話を楽しんだり、寮にいる通常期間の学生と音楽を演奏したりしていました。

派遣先大学の環境について

① 加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

英語圏外からの留学生がほとんどの授業だったので、先生はわかりやすく話してくださりました。また現地の学生によるオリエンテーションなども充実していました。

② 学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

立派な図書館がいくつかあります。広大なので目当ての本を見つけるのが大変ですが居心地は良いです。食事につ

いては大学のすぐ南にある通りでなんでも好きなものを食べられるので、全く不自由ませんでした。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず第一に、自分の積極性が向上したと思います。挑戦して失敗してもただそれを反省材料として活かせばいいだけだと気づいてからは、いろんなことにトライするようになったと思います。わずかな変化ですが、意義のあることだと感じています。

第二に、自分の英語力の足りなさを突きつけられました。日常会話は不自由なくできても、学術的なことになると一気に聞き取りや発言が難しくなるのを痛感しました。相手の発言を正確に理解するために、そして自分の意見を正確に伝えるために、語彙力をはじめ語学力全般を向上させていく必要があると思いました。

② 加後の予定

しばらくは東大で学部の勉強に専念するつもりです。大学院に進むときに、東大で学ぶのか海外で学ぶのかを考えるとありますが、その時に今回の留学体験がどう影響してくるかを自分でも楽しみにしています。

③ 後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加するかしないかで迷っているのなら、是非参加してみたらどうでしょうか？

高いお金と貴重な時間を割いてでも行く価値は十分にあると思います。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科・修士一年

参加プログラム:Berkeley Summer Sessions 派遣先大学:University of California, Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:コンサルティング) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

アメリカ、カルフォルニア州バークレーが本部の州立大学。World University Rankings 2013-2014にて公立大学の中では最高順位(8位)に位置する。

参加した動機

海外での勤務を希望しているため、就職活動をする前に英語圏での生活を行い自分の問題点を発見し就職活動の前に改善方法を考えたいと思い参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課のアドバイスに従って手続きを行いました。早めの準備をおすすめします。私は準備が後手後手になってしまった為、当初希望していたクラスの登録をすることができませんでした。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1ビザ、クラスの登録に戸惑ってしまったためビザ申請が渡米時ギリギリとなってしまい、緊急予約を利用しました。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

大学の健康診断以外特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損保ジャパンの海外旅行保険(3万円弱)、クレジットの付帯保険(三件)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

建築学事務所にて単位の取得は不可、及び休学での参加も不可との説明を受けました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEIC 830

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

バークレーはロサンゼルスなどと違い夜にはかなり冷え込むので夏だからと安心せず、セーターもしくはカーディガン等軽めの防寒具の準備をお勧めします。また準備は早めに行う事。早めに登録等を行っておけば、何かミスがあった際も訂正する事が可能な場合が多いです。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

English Presentation: 毎週異なるトピックについてのプレゼンテーションを行う。

Zero Energy Building: 二人一組で天候及び建築の分析を行う。作業量が多く授業以外の日もほとんどこの授業に費やしていた。

②学習・研究面でのアドバイス

課題が多いクラスもありますが、規則正しい生活を行い日々の生産性を向上させる事をお勧めします。

③語学面での苦勞・アドバイス等

語学には常に苦勞させられたが、特にグループワークの際に苦戦しました。理解できない事があった際はその後場凌ぎでうやむやにせず確認するようにしましょう。相手も良く理解していない事が多いです。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Berkeley Student Cooperativeという自治寮に宿泊しました。家賃が学校直営の寮の半額程なので非常に人気があるようです。学校直営の寮では出会う事の出来ないバークレー大学の生徒達も暮らしているため現地の事をより深く

知りたい方にはオススメです。ただ自治寮のため週2時間程清掃等のワークシフトをこなす必要があります。またセキュリティは学校の寮と比べるとかなり甘いです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候:パークレーの夏は日本人には肌寒く感じる事があると思います。間違っても T シャツだけの渡米は市内で下さい。

お金:10万円を空港でドルに換金し、基本的にはクレジットカードで支払いを行っていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

深夜 10:30 以降は課題等を行わないようにし、パーティ以外の際は早寝早起きを徹底しました。またパークレーではスポーツジムが留学期間中\$10 で使い放題なので週四日程通り体力の向上を図りました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空賃(約13万円)、授業料(約26万円)、教科書代(約2万円)、家賃(約19万円)、食費(約10万円)、交通費(約1万円)、娯楽費

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

2014年第1回 東京大学 奨学金付き夏季短期留学(16万円)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

休日は余裕のある週には友人達と車で観光に行きました。アメリカは公共交通機関が発達していないので国際免許書の取得をお勧めします。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特にサポートを求めなかったため不明です。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

至る所にカフェがありますが味は期待しない方がいいです。サティスナブルデザイン学科はPC利用の為に約1万円を別途支払う必要がありました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

新たな環境で様々な失敗をおかしてしまいがちながらもそれらを慣れない英語で乗り切った経験は英語力の向上のみならず問題解決能力に関しても成長することが出来たと感じています。

②参加後の予定

帰国後は外資系の企業への就職を目指し就職活動を行う予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

もし金銭的な問題を解決できる様でしたら参加をお勧めします。日本でする事の出来ない経験が出来るはずです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。